

# 夢や思いを語り合う場に

## 窓口担当は丁寧な接客を



鹿児島ウーマンライフ  
研究会代表

矢野 圭夏さん(35)

2011年7月、鹿児島県男女共同参画センターが主催する「女性の働き方講座」の参加者5人と任意団体「鹿児島ウーマンライフ研究会」を立ち上げた。「好きな活動や仕事を大事にしたい女性たちが、職場や

家庭以外で思いを語り合える場を作りたい」ことが動機だった。

13年10月より鹿児島市から委託を受け、同市で初めての女性起業家支援スクール「ficanvas」を運営する。自身も女性起業家の一人として、創業に至るまでの課題や工夫をアドバイスする。

大阪市出身。大学卒業後、OA機器販売会社に入社し、大阪、東京で5年間働いた。夫の転勤に伴い、08年に鹿児島市へ移住した。転機は事務担当のパートとして働き出した社会保険労務士事務所。前職の経験を生かした資料の電子化や

書類整理の工夫などの提案が評価され、正社員に登用。顧客企業の業務改善に向けた研修を任されるようになった。

その後、13年に人材育成を手がける個人事業主として起業した。心理療法の専門資格「NLP」を取得し、現在は介護現場の思いや目標を共有する対話型研修に力を注ぐ。

起業スクールでは、起業の目的の可視化から始まり、専門家による資金調達や事業計画書の策定方法を学ぶ。参加者からは、アクセサリーの販売や育児相談を主としたカウンセリングなど様々なプランが生まれている。

女性起業家の特徴を「小さく産んで大きく育てる」と分析。「自分の特技や資格を生かすことで個性が生まれる」。また「女性は思いと行動が強くなりがち。じっくりと戦略を練ることが重要」と起業を考える女性たちにアドバイスする。

取引先金融機関は鹿児島銀、みずほ銀など。金融機関には「窓口担当者は金融機関の『顔』。代表として丁寧な接客を心がけてほしい」と望む。(鹿児島)

(文・写真)三宅 叶夢